

令和元年度道路管理に関する懇談会 第1回懇談会 議事録

【概要版】

日時：令和元年8月2日（金）14:00～16:00

場所：かでの2・7 5階 510会議室

1. 事務局報告及び説明

- ・事務局より、委員紹介。萩原委員の座長の指名を報告。
- ・道路管理に関する懇談会開催要綱等の説明。
- ・事務局より、オブザーバー4名の紹介。

2. 令和元年度道路管理に関する懇談会資料について

- (1) 平成28年度道路管理に関する懇談会の概要
- (2) 平成28年度以降の取組

【内容】

（配布資料4に基づき事務局から説明）

【議事】

- ・（萩原座長）VICISが全路線表示されるようになったことは、5年間で一番の変化だったのではないかと。早期の通行止めが実施されるようになってきていることも非常に進んできているのではないかと。

- (3) 平成30年7月大雨時の対応状況
- (4) 路管理上の課題（大雨）

【内容】

（配布資料4に基づき事務局から説明）

【議事】

- ・（松尾委員）平成28年の豪雨災害では様々な取り組みを提案したが、その後の災害ではどうだったのか「検証」しようということ。「検証」という言葉は施設管理者からすれば結構つらいキーワードなので、よく「振り返り」を使う。組織としての責任は出てくるが、現場にいる委託業者、職員の責任を問うような話ではないと思う。この要綱の中にそういうことを書いておかないと後々大変ではないか。
- ・（事務局）これまでの取り組みを検証というよりは振り返って、改善すべきことは改善していく、大きな災害がなくても適宜振り返りながら拡充していくことが必要ではないかと考えている。
- ・（萩原座長）「検証」という言葉は重いのではないかと。
- ・（事務局）確かに外向きには「検証」と言ったほうがわかりやすい。
- ・（松尾委員）「検証」という言葉を使うのだったら徹底的にやる。きちんと書いていない部分も調べなければいけない。そこまで覚悟があれば、「検証」という言葉も重要

だが、建設部としてどっちなのか、これから真剣に考えなければいけない。

- ・（松尾委員） 6 ページの短期と中長期というのは、短期というのは例えば翌年というようなイメージだが、中長期というのは何か。
- ・（松尾委員） 平成 28 年度の懇談会を受けて、北見常呂線 道道 7 号で「タイムライン」というキーワードで取組みを行っているが、書かれていない。道として取り組んでいるのであれば、現場の技術者が行ったことをきちんと評価する仕組みをつくる必要があるのではないか。
- ・（事務局） 中長期と短期の取組みについては、これまで既に行っていることもあり、それが効果的であれば引き続き行う。タイムラインが効果的であれば、それを発信していくことは必要だと思う。ただ、中長期的な取組はこれから行っていく部分であり、引き続き検討を進める。
- ・（萩原座長） 道道 7 号のタイムラインの整備については、この会の中で報告として入れたほうがいいのではないかと。
- ・（松尾委員） 25 ページの検証事項は道路管理者の視点であり、地域の視点で見ると、ほかにもあるのではないかと。このアプローチの仕方とまとめ方については議論が必要である。
- ・（事務局） 天人峡美瑛線に関しては、これから現地に行って、地域で実際どうだったのかという意見も踏まえて、次回の懇談会で反映する予定である。
- ・（松尾委員） 維持業者のマニュアルに、委託業者の命を守るという精神が入っていない。これは重要ではないかと。
- ・（事務局） 委託業者の命を守るということについては、前回の議論の中でもライフジャケットの話などがあり、取組みを進めている。今回の地震時パトロールでも危険な状況があったと思う。職員、委託業者、一般の通行者の安全確認は必要であり、現場での意見を踏まえて次回以降に反映する予定である。
- ・（萩原座長） 委託業者の命を守るというのはもっと強く出されてはどうかというお話だと思うので、項目として入れてもいいのではないかと。
- ・（橋本委員） 6 ページにある「オープンデータ化の推進」、「GIS を活用したわかりやすい資料作成」については、この資料で地理情報を GIS 上で整理して表に出せる、デジタル化して情報を流せる形でまとめられていて大変すばらしいと思う。そういう部分はある程度進んでいると思う。
- ・（橋本委員） ドローン調査は状況把握で役に立っていると思うが、その結果をいち早く公開して現場に状況を知らせる、正しい情報を早く流通させることが大事だと思う。厚真の地震時もあったが、SNS で偽情報が広がったことが問題になっている。正し

い情報が画像つきで出ると、信用度につながると思う。道の対策やお知らせの信用が増すことから、ぜひそういう工夫をしていただきたい。

- ・(橋本委員) 今回は晴れたからドローンが飛ばせるという状況だったが、ドローンの性能は上がっていて、雨が降り続くような状況でも飛ばせる。緯度経度で飛び、測位衛星の精度が上がっているので、悪条件でも情報が収集できるようになっている。この辺の技術改善を怠らないで、よりよい情報をリアルタイムにとって、なるべく多くの方で共有する。そういう体制が望ましいのではないかと考える。
- ・(事務局) 得られたデータをどう公開していくか。正しい情報を速やかに、画像があれば一番いいと思うが、どういう形でできるのかは今後検討させてください。
- ・(萩原座長) 通行規制情報は、基本はVICS情報が一番正しいというのが知れ渡っている。例えば、川があふれているとか、信頼できるリアルタイム情報はどれか、大事だと思う。VICSの情報は信用できるというようなものを早くつくられたほうがいいのではないか。
- ・(松尾委員) 17ページを見て、西日本ばかりではなく被災している。道内も含めて情報共有されているのか。北海道で200ミリ降ったら大変なことが起こるのは確か。
- ・(萩原座長) 北海道は200ミリが限界。
- ・(松尾委員) 200ミリ降ったぞ、これだけの被災があったぞということを発信しないと、西日本にばかり話がいつてしまっている。このときは人的被災はなかったのか。
- ・(事務局) 人的被害はなかった。
- ・(松尾委員) 法面崩壊、例えば橋梁の洗掘、落橋なども、何で起こったのかというのはこの会の趣旨ではないが、道路管理という視点から、雨の降り方によってこういうことが起こるのか、起こらないのか。奥尻の法面崩壊について雨の降り方がどうだったのか次回データを見せていただきたい。
- ・(桜田委員) ドローンについて、平成28年度の被災を受けて29年度に10の出先で配置し、次の年に2つの現場で役に立ったことはすごいことだと思う。全然わからなかったところがドローンで劇的にわかるようになるということで、現場で操作している方に無理をさせるような傾向が出てきているので、現場の安全性は大事だと思う。ドローンの画像を早く情報提供することで、道庁という管理者に対する利用者の安心感につながっていくのかもしれない。道庁が出している情報だから、確実に精度のいい情報だということがわかる、それだけでも全然違ってくるのではないか。
- ・(森谷委員) ハンドブックでは、準備、初動対応の段階から気象情報を大変重視していただいている。雨量監視がメインになっているが、降水時間予報や高解像度降水ナウキャストなども載っているので、その解説があると、より利用に当たって理解がしやすいのではないか。研修会の開催では、地元の气象台に声をかけていただき、現場の方が気象情報を利用するに当たってのアドバイスなど、气象台も協力していきたいと思っている。

(5) 平成30年9月胆振東部地震の概要

(6) 道路管理上の課題（地震）

【内容】

（配布資料5に基づき佐藤オブザーバーから説明）

【議事】

- ・（草塩委員）先ほど松尾先生から委託業者の命を守るという話は、大変ありがたいお話をいただいたと思っている。維持業者の意見交換会の中でも命をかけてまで守れないという話が出るが、パトロール員たちはどのような気象条件でも出ていくため、危険な目にも遭っている。事前に通行止めをかけることが昔よりもできるようになったが、雨の場合は大体どの辺が危ないか、何ミリ降ったら危険か維持業者はよくわかっているのだから、出張所と打ち合わせをした中で、なるべく事前に通行止めができるようなやり方をしてほしい。
- ・（草塩委員）地震時は、室蘭建設協会としてバックホウ、タイヤショベル等の重機を手配したが、どこに行ったらいいのかわからなくて、2日間の待機後に戻ってしまったということがあった。災害で情報が錯綜している中であつたが、うまくできれば機械を上手に使えたのではないかと思う。
- ・（松尾委員）厚真の緊急対応タイムラインの話がなぜ入らないのか。9月29日、台風24号対応で建設管理部は地域と一緒にになって通行規制を行った。10月6日、台風25号の時は、道警、地元の消防や消防団と維持業者、道路管理者と一緒にになって規制対応した。今回のように斜面崩壊があつて、雨が降ったらもっと大きなことになるかもしれないという危機感を持っていく中で、その沿線上の自宅に一時的に帰っている住民がいた。住民の追い出し、通行規制をかける前の地元説明など、逃げるために徹底的な対応を連携して行ったことはすばらしかった。その中核を担ったのは建設管理部であり、そういう取り組みを先ほどの発信の中に入れていただきたい。台風25号の時には、建設管理部、室蘭地方气象台とが連携して通行規制の対応についてテレビ会議で議論した。平成28年の懇談会で得た対策を実証したことになると思う。
- ・（橋本委員）29ページの会議写真で、テーブルの大きな空中写真はどうやって調達したのか。
- ・（事務局）国土地理院から。
- ・（橋本委員）国土地理院だが、危機対策課の会議で、危機のときの「情報流通」として、国土地理院その他の情報が道庁に集まって、道庁のトップから下へデータが流れる仕組みをつくったが、今回は全く機能しなかった。道全体で基盤図、汎用図など情報の基盤は道の中で迅速に流通できるような体制を用意しておいてほしい。
- ・（橋本委員）これだけの情報があつて、すばらしい資料ができているのだから、なるべくオープンにすることで、外から来る方がここは行ってはいけない、内部の方がど

う対応しているのか、という対応に資するようものに活用できないかと思っている。

- ・(橋本委員) 東日本大震災時も内部にデータはあったが、流通しないで外部から持ってきたことがあった。内部にデータがあり、組織もあるわけなので、きちんと対応すべきと思う。
- ・(松尾委員) 平成28年の懇談会では広域水害で議論したので、突発の地震というのは今回が初めてのケースで、それに対して道路管理はどうあるべきか、それに備えてきちんと議論することが重要だと思う。道路管理者として安全対策を考えたときに、被災地の住民は危険な状況でも家に戻ってしまうため、通行規制をかける時の問題は追い出しをどうかけていくか。道路管理者、委託業者では一時帰宅者を全て把握できていないため市町村と連携することが重要。今回はその成功例であった。地域との連携、道路管理の徹底、二次災害を防止するためには地域との協同が必要。行政を通じて消防団、消防職員と日ごろから顔の見える関係にしていくことが必要。
- ・(松尾委員) ブラックアウトで全く電気がない夜間での対応。道路管理者、維持業者として地震に対してどういう装備品を持っておくか。携帯電話も使えない。車を使おうと思ったら燃料の問題が出てくる。民間スタンドとの協定はあるが、実際は融通してくれない。道路管理者、維持業者も含めて何をしていくべきか考えたほうがいいのかではないか。
- ・(萩原座長) 通行規制をかける追い出しは実際されたということか。
- ・(松尾委員) 白図をもとに人が戻っている世帯を全部マーキングした。気象台が注意報を発表したら通行止めにする。通行止めにしたときに、追い出しをかける人たちは誰で、誰がやるのかを決めていたから効率的にできた。そこでどんなことが必要か、手引のようなもの、厚真の教訓として、発災時、突発災害における道路管理のあり方のようなものを用意しておくといいかもしれない。

(7) 本懇談会における調査概要(案)

(8) 今後の検討スケジュール(案)

【内容】

(配布資料4に基づき事務局から説明)

【議事】

- ・(萩原座長) 先ほどまで出てきた話についても、調査に含めて確認してほしい。
- ・(橋本委員) 熊本地震のように大きな地震で被害が出て、それが本震だと思っていたら、2日目にさらに大きな地震が来て被害が起きるという場合がある。今回、震源の場所が場所だけに、どういう地震の起こり方かわからない。2日目、3日目もっと大きな地震が起こる可能性というのをどの程度考えていたのか、そういうリスクを考えながらどの程度作業をしていたのか、ヒアリングに加えてもらいたい。
- ・(松尾委員) 二次災害というか、余震か次の本震に備えて法面の点検は暗いとき、雨

が降っているときはやらない。維持管理、点検の仕方のような話が、余震・本震対策に備えたというのはあるかもしれない。

- ・（橋本委員）熊本地震後、地震後の対応はかなり慎重になってきているはずだけれど、今回、厚真はどうだったのか。
- ・（森谷委員）：気象の支援情報に加えて地震関係の活動状況、解説を毎日出していた。今後どういう地震が起きる可能性があるという解説をしていたと思うので、それも踏まえて現場では対応されていたとは思いますが、実際は現場で確認するとよいと思う。
- ・（萩原座長）これらについても調査入れてほしい。